

# 描きも描いたり スケッチブック1万枚！

自然体で 日常を 「好きなように描く」  
「カメラ撮影のむらかみ」(東町)の村上和義さん(82)



描いた絵を展示・収納している店内の「階段ギャラリー」で、記念の1万枚目の作品を手にする村上さん

水彩、色鉛筆、竹ペンなどでスケッチブックに描かれているのは、おもちゃや花、民芸品、果実など村上さんの身近、生活空間にある物ばかりで埋められています。記念の1万枚目は、第1作の「ミカン」から33年7カ月の月日がたっていました。

幼い頃に版画家川上澄生、安平出身の画家遠藤ミマンとの交流を得て、絵画、画家にあこがれ、高校時代は美術部で活躍。基本をみっちり身に付けました。「子どもたちに教えた」と美術教師を目指しましたが、父の急逝で家業を継ぎ、その後カメラ店を創業して家族を支えてきました。

しかし50歳になった1990年1月、「このまま（絵を描くことを）諦めるのはいやだ。好きだから、好きなように描こう」と、店を営業しながらお客さんが来ない合間に、再びこつこつと絵筆をとり始めました。身の周りの題材が多い秘密です。

1日に8枚も描く日もあれば、2日に1枚という日もあるマイペース。「ここまで続けられるとは思ってなかったけど、年をとってくるとますます好奇心が湧き、楽しくなってくるんだよね」と若々しい笑顔を見せていました。

## 藤根さん 特別全国障害者スポーツ大会に フライングディスク競技で本道選手団入り



多機能型事業所フロンティア利用者の藤根健太さん(26)＝萩野。コロナ禍前の2019年の北海道障害者フライングディスク大会で3位入賞を果たしたことから、10月28日から鹿児島市を中心に開催される同全国大会の本道代表メンバーに選ばれました。

藤根さんは同競技を5年ほど前から施設スタッフの指導などで始めました。「投げた後の手のちょっとした変化や腰の回し方で距離や方向が随分変わったりします。うまい人を観察しているとおもしろくて」と同競技にはまり、全道大会でメダルを獲得するなどめきめき腕を上げたようです。

9月15日、大塩英男町長を表敬訪問。「全国大会は初めてですが、とりあえずみんなと一緒に楽しみたいと思います」と力強く抱負を話し、大塩町長や小学校時代の恩師でもある安藤尚志教育長の激励を受けました。